
私の明久に手を出すな～！！

ゆーり

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私の明久に手を出すなっ！！

【Nコード】

N1747Y

【作者名】

ゆーり

【あらすじ】

明久の婚約者である少女がたくさん魔の手から明久を救うべく立ち上がる！

「明久の半径10メートル以内に近づくなあ」

それはむりっしょ奥さん

明日はどっちだ！がんばれ悠里！

プロローグ（前書き）

やっちまった感全快。

でも後ろを振り向いたりしない！

行け、行くんだジョ
●ー

プロローグ

みなさんこんにちわ!!

はじめまして佐崎悠里です。

じつは私、婚約者がいるんですが・・・彼ってば無自覚な天然たらしなんです。

私という婚約者がいるのにひどいと思いませんか？

彼の名前は吉井明久といいます。皆さん知っていますよね？

だから私、他の女たちから明久を守るために頑張ります！

まずはじめに要注意人物を確認しなきゃですね。

1人目 姫路瑞希 彼女ったら明久にべったりなんですよ。

いくら幼馴染だからってくつつくのは関係ないですよ。

いすよね？

しかも絶対天然でもドジでもないです！

（これって計算って言ってますっけ？）

2人目 島田美波 彼女は暴力女ですね。

すきって言えずに照れかくしっだっっていうてもあきらかにおかしいです。許しません！

まあ他にも明久に恋しっちゃっている人はいるんでしょうが・・・要注意とまではいかないでしょう。

玉野さん？

彼女は論外です。私と明久と幼馴染ですし、私だってアキちゃん好きですもん！

そういえば私、明久と同じ学校には通ってませんでした。

そのせいでもう女が明久に寄り付いていますけど・・・

じゃあなんで知っているかって？

すべて玲さんが教えてくれたのです！（くわしくはまた今度・・・

）

でわでわ明久を救うべく文月学園に転校です！！

プロローグ（後書き）

ありがとうございました。
でわでわおやすみなさい・・・

突撃？（前書き）

こんにちわ、ゆーりです。

コメントともうれしかったです！

だいぶ短いのですが今回もよろしくお願いします。

実は受験生のためこのお話は不定期になると思います。

気ままに待っていただけるとうれしいです。

でわでわ、どうぞ！

突撃？

始めましての方、お久しぶりの方、おはようございます。

婚約者の明久をたくさん魔の手から救うべく、つい先日、文月学園への転校を決意しました、佐崎悠里です。

そんな私は今、Fクラスのドアの前（あってるのかなあ？）にいます。

・・・ちよつと緊張しますね。

今さらなのですが明久に会うのとても久しぶりなのです。

まあ、いろいろそれには事情があるのですが、置いて・・・いいのかな？

そんなことをしているうちに、先生に呼ばれました。
でわでわ早速、行つてきます！

教室 明久side

「そういうことなので転校生の方、入ってきてください。」

そういうことって何だろうね？ってだれに言ってるの僕！
なんか自分でつつこんで悲しくなってきた・・・

そんなこと考えてたらドアが開いた。

えっ、あれ？なんで・・・？

「はじめまして、佐崎悠里です。」

吉井明久は私の婚約者ですから、手をださないで下さいね。」

そういつてニコッと笑ったのは僕の婚約者だった・・・

突撃？（後書き）

ありがとうございました。

この次もよろしく願います。

でわでわ、今回はこの辺で・・・さうばー！

屋上です。(前書き)

お久しぶりです。

今回もよろしくお願いします！

屋上です。

はじめましての方、お久しぶりの方、こんにちわ。

私がFクラスで自己紹介をしてからいろいろなことがありました。

いちいち説明するのはめんどくさいので簡単に言えば、明久に手を出したやつら

???団は活動を停止、消えて亡くなりました。

私の明久に手を出したのですから当然の報いですね（ニコッ）

えーっと、姫路さんと清水さん?（・・・島田です）とは

O・H A・N A・S H Iしましたが、こりませんね。

この2人はゆっくりりじわじわと躰けないとですね！

そして今、私は屋上にいます。

明久s i d e

こんにちは、吉井明久です。

何を今さら・・・とか思わないでね、悲しくなるから！

「おまえ、いつからだ?」

バカ雄二が急によくわからないことを言ってきた。

「・・・何が？」

雄二が額に手をあてて、こいつバカだろっていう目で見てくる・

えっと、ふつう急にいつからって聞かれても分かんないよね？

「いつから婚約者がいたんだ？と聞いてるんだ。」

ああ、そういうことか！

「僕と悠里は生まれたときからの付き合いなんだよ。」

僕のお母さんと悠里のお母さんが親友で、住んでる地区は一緒じゃなかったんだけど、結婚してから休みの日にはお互いの家を行き来したりして会ったりしてたんだ。

僕らが生まれてからもそれは変わらなくて、それから何年か経って僕から告白して付き合うようになったんだよ。」

「ふーん、そういうことか・・・」

いつのまにか悠里と話していた姫路さんたちもこっちへ来ていた。

まあ、告白するときにいろいろあったんだけど、大切な思い出から

誰にも言いたくないし・・・言う必要もないよね。

「そういえば、アキのお姉さんはアキと悠里のこと許してるの?」

まあ、普段あんなことしてくる姉さんだもんね。みんなそう思うだろう。

「ああ、それは『明久!』・・・悠里、どうしたの?」

・・・僕なんかしただろうか???

「今回はこれで終わりといつてやです。」

え、ちょっと・・・どういふことだよー!!

屋上です。（後書き）

少しでも長くしようとしたらいきなり失敗。
次こそ頑張りたい。

実は今、テスト週間です。

そのため来週いっぱいお休みします。
それなのにこんなんですイマセン・・・。

でわでわ、今度こそ！！

設定!!（前書き）

今頃ですが・・・

設定！！

ささきゆうり
佐崎悠里

明久とは生まれたときからの付き合いで婚約者。

明久大好きでアキちゃんもぜんぜんOK。

明久のためならなんでもできちゃう。

小5のころに家の都合でアメリカに引越す。

その後も明久とは手紙や電話などで連絡を取っていた。

明久を魔の手！？から救うべくアメリカから戻ってきた。

玲との仲は良好で玲に料理を教えてたりと姉妹のよう。

アメリカにいたけれど英語は苦手・・・しゃべれるけど読めないし、

書けない。しかし国語と社会は得意。

ささきりょうた
佐崎亮太

悠里の兄。

玲とは同じ日に生まれて恋人同士。

明久と同じように天然タラシで性格も似ている。

でも頭はすごくよく、そこらの不良よりも数倍強い。

明久の憧れの人。

アメリカで暮らしているが、玲と暮らすために帰ってくる予定。

ちなみにこの話はAクラス後から始まっています。
いまのところ召喚戦争をするつもりはありません。
明久は少し頭がよくなっています。

得意なのは国語と社会で、悠里と点数はあまり変わりません。

また、この話は明久がハーレムのようなものです。

性格などは変わりませんが秀吉は女の子、翔子は雄二を
好きではありません。

そのためAクラス戦での雄二と翔子のやりとりはなかったことと
します。

ほかの女の子たちも明久のことを好きだったりします。

玉野さんはあくまでアキちゃんを気に入ってるだけとし、明久た
ちとは

幼馴染です。

もしかしたらFクラスのメンバーしか出せないかもしれませんが。
亮太も話にはでてきても直接は出てこないかもしれません。

設定！！（後書き）

お久しぶりです。

また少し時間が出来るのでちよくちよくやっていききたいと思います。
コメントを下さった方々有難う御座います。
でわでわ今回はこの辺でさようならです。

破壊力 抜群（前書き）

破壊力 抜群

皆さん、こんにちは。佐崎悠里です。

前回は私たちの関係を玲さんは許しているのか？というところで強制終了しました。

本当なら明久の話を聞くべきなのでしょうが、ぶっちゃけ明久の説明は理解不能・・・

ということなので簡単に私が説明しようと思います。

知っている人もいるでしょうが私には兄がいます。

私の兄と玲さんは同じ日に生まれ、今では恋人同士なのです。

そのため私と玲さんは姉妹のように仲がいいので、私と明久が恋人なのは

許してくれている????のです。

それに玲さんが明久にしていたことは実は明久に引っ付く女をはらうためです。

これは私が玲さんに頼みました。こうでもしないと明久の身に何が起こるか

わかりませんから！

そういえば私は、明久の家に住む予定です。（明久にはまだ内緒

ですよ」

私の家族はまだアメリカにいるため、最初は一人暮らしする予定でしたが

それを知った明久のお母さんが何かあったらどうするの!と言ったので、

いろいろ話し合った結果、明久たちと一緒に住むことになったのです。

「悠里、悠里!もうお昼休みも終わるから教室に戻るよ。」

明久に呼ばれました。・・・いつのまにそんな時間に?

結局、明久とは全然話せませんでした。まあでも、はやく学校が終われば

いっぱい話せますしいいでしょう」

明久 side

お昼休みが終わるから教室に戻ると悠里に言ったら、悠里は少ししょんぼりした

顔を見せた。・・・と思ったら急にフニヤンて笑った。

グサツ、ボタボタ

そんな顔は僕の心にクリティカルヒットした。

鼻血を止めるために手をおさえる。

だって久しぶりに会ったんだよ?

悠里は世界一、ううん宇宙一可愛いから、そんな悠里が僕ぐらいにしか

見せない表情をしたら、もう倒れちゃうよ。

そんなこと言ったら目の前がくらくらして・・・

ほんとに倒れた。

・・・ああ、みんなの声が聞こえる・・・

「アキ！大丈夫！？」

島田さん？

「おい、明久！」

雄二、顔が笑ってるよ？

「明久君！」

姫路さんは、心配性なのかな？

「なんじゃ、明久っ！」

秀吉・・・

「明久！明久！どうしたの、大丈夫？」

悠里、顔近づけられるとヤバイから。

「・・・明久。輸血パック・・・いる？」

もちろんいただくよ、ムツツリーニ……。グッ！

僕はムツツリーニのほうを向いて親指を立てた。

バタッ

僕はそのまま意識を手ばなした。

破壊力 抜群（後書き）

今回は長め・・・

そのためだいぶ時間がかかってしまいましたがいかがでしょうか？

僕の心にクリティカルヒット

言葉にしたらとてもじゃないけど恥ずかしい。

今回は番外編・・・だと思います。

まあ、予定は未定である。ということでは何であらうと
大目にみて下さい。

お願いします。

でわでわ、今回はこの辺で・・・さらばっ！

番外その1 翔子

なにもかも初めてだった・・・彼のおかげで今の私は此処にいる

《入学式》

学年主席の私は、入学式の新入生代表としてあいさつをすることになった。

あいさつをして教室に戻る際、とある集団に呼び止められ、体育館裏に連れられた。

「なんであんたみたいな女が、学年代表なのよ。」

「先生にでも媚びて、点数もらっただんじゃないの？」

「本当なら亜柚が代表のはずだったのに！」

簡単に言えば、彼女たちのリーダー的存在の亜柚という少女は頭がとてもよく、必ず代表になれると周りから期待されてたのだ。しかし、実際は私が彼女よりも点数が高く、私が代表になった。そのため彼女たちはその私が許せないらしい。

だからといって、なぜ私がそんなことを言われなければならないのかわからない。

「別に何もしてない・・・あれは私の実力・・・。」

そう言っても彼女たちは聞き入れてくれず、彼女たちの発する言

葉は

言葉の暴力に変わり始めていた。

いくらなんでもそこまで言われれば私だって傷つく。
誰か助けてくれないだろうか・・・そう思ったとき、

「そこで何をしてるの？せつかくみんな可愛いのに、そんなこと
言ってるよ」

台無しだよ。」

目の前に現れたのは、茶色の髪をもつ、とても可愛い顔をした男
の子だった。

亜柚たちは顔を真っ赤にして、黙ってしまった。

それもそうだろう、彼は確かに可愛いけど雰囲気は全然違ったの
だ。

一言で言えば かつこいい だと思う。

おかしいと思うだろう、でも本当にそうなのだ。

そんな彼に可愛い顔が台無しだと言われてしまえばもう何もいえ
ないだろう。

彼女たちは彼がもう一度何か話そうとする前にどこかへ行っ
てしまった。

「大丈夫だった？たしか学年代表の霧島・・・翔子さんだね？」

彼女たちが去っていくと彼は私に話しかけてきた。

「・・・そう・・・助けてくれてありがとう・・・名前・・・
？」

「そっか、よかったよ。僕の名前は吉井明久だよ。よろしくね！」

彼はとても人のよさそうな笑顔で答えてくれた。

もう一度言おう。彼のおかげで今私の私は此処にいる。

私と彼の出会いはこれでお終い。

いつか続きが話せるといいと思う・・・。

番外その1 翔子（後書き）

お久しぶりです。

どうだったでしょうか？

感想お待ちしております。

またこの話での明久はカッコ可愛いので・・・

次はたぶん本編に戻ります。

でわでわ、さらばっ！です。

下校

明久 side

・・・目が覚めた。一言で言えばそうだろう。

でも今、目の前で起きていることが僕の頭では理解できない。

美波と悠里が言い合っている。

それだけでなく普段はおしとやかな姫路さん・・・秀吉までもが言い合っている。

話の内容はなんだかさっぱりわからない。

でも僕の名前がよく出ているから、僕がなんかしたのかな？

そんなことを考えていたら悠里が僕に気がついた。

「明久、大丈夫ですか？すみませんでした・・・。」

悠里は泣きそうな顔をして僕に謝ってきた。

たしかに原因は悠里だけど倒れたのは僕の勝手だ。

「大丈夫だよ。悠里のせいじゃないから謝らないで。」

・・・悠里が泣くと僕も悲しくなるから泣かないでほしいな？」

「うん、ありがとう。」

悠里が敬語じゃなくなった。

それは秀吉たちが空気を読んで出て行ってくれたため、誰もいな

いからだ。

悠里は人に心を開くのが苦手だ。

心を開いてない人が近くにいるときはその人とは話していなくて、
どれだけ心を開いている人（たとえば僕）と話していても敬語に
なってしまう。

理由は今は聞かないでほしい・・・僕も話したくないんだ。

下校の音楽が流れている。僕は放課後まで寝ていたらしい。

悠里をぎゅっと抱きしめる。

「いっぱい話したいことあるけど後にして、まずは帰ろうか。」

悠里は笑顔でそれに答えた。

教室にかばんを取りに行つて校門をあとにした。

そういえば悠里ってどこに住むんだろう？

ふと、そう思ったから聞いてみることにした。

「悠里ってどこに住むの？送っていくよ。」

そう言ったら悠里は少し考えたあとにニコツと笑って答えた。

「秘密だよ。とりあえず明久の家に行つて、玲さんに会いたいな
っ」

なんか怪しい・・・けどまあいつか。

僕もいっぱい話したいし。

手をつないで歩く。悠里がいるだけでとても楽しい気分だ。
なんだかにやけてきちゃうな♪

そんなこんなで僕のマンションについた。

悠里がニツコリと話しかけてきた。

「そういえば明久、私今日から明久と一緒に住むことになってるんだ。」

よろしくね♪」

えっと、今なんて言った？

そんな僕の心の声が聞こえたのか悠里がもう一度言った。

「だから、明久と一緒に暮らすのっ。」

えーと、悠里は僕と暮らすっていうこと？

なんか考えたら頭がクラクラしてきた、今度は簡単に意識を手放した・・・

下校（後書き）

どうでしたか？

コメントなどで読んでいる方がわかるととてもうれしいです。

また中途半端ですみません。

今週はもう一話書けると思いますので待つて頂けると嬉しいです。

でわでわ、さうばっ！

2人ではじめる(前書き)

2人ではじめる

明久 side

知ってる天井だ・・・だつてここは僕の部屋だから♪
悠里と一緒に住むといったことに驚き、倒れたことを思い出した。
今思えば、別に倒れる必要なんて無かつたんじゃねえの？なんて
ね。

ドアの開く音がした、悠里だ。

「明久、ごめんね？でも、驚かせたかつたの・・・。」

また悠里に謝らせてしまった。

「別にいいんだよ。僕のほうがゴメン・・・悠里と暮らせるなんて
すごく嬉しいよ♪」

そういつたら悠里の顔が林檎みたいに真っ赤になった。

「悠里、だいじょうぶ？顔真っ赤だけど熱でもあるんじゃない？」

悠里の顔をのぞきながらそう言つと悠里の顔がさらに真っ赤になる。
ほんとにだいじょうぶかな？

すると悠里がはつとした姿を見せて、僕になんかが書いてある紙
を渡してきた。

んーと、内容は・・・なにになに？

明久へ

悠里さんには会えたでしょうか？

悠里さんから聞いたと思いますが、悠里さんは明久と一緒に住むことになっています。

予定では私も含め3人で住むことになっていましたが、実は

今日

亮太が帰ってきました。

そこで亮太との約束どおり一緒に2人で暮らすことになりました。

だから、明久は悠里さんと2人で暮らすことになります。

また亮太と会いに行きますからよろしくお願いしますね？

玲

より

ね、姉さん・・・

亮太さんが帰ってきたら2人で暮らすのは知ってたけど、いくらなんでも僕らが2人で暮らすのはいけないことだと思うよ。

「あ、あのね明久。ふつつかものですがよろしくお願いします！」

・・・まあ、いつか。

「こちらこそよろしくね、悠里。」

こうして僕らの同棲（違っよ！）生活が始まった。

悠里 side

今、私は明久と一緒にリビングでテレビを見ています。
なんだかんだありました。が明久も落ち着いて、さっきは久しぶりに料理も

披露してくれました。やっぱり明久の料理が一番おいしいです。」

「そろそろ、寝ようか？」

時計を見ればもう11時です。

まだまだ明久と一緒に話したいですが、今日はいろいろあって疲れましたし、寝ましょうか。

「うん、そうだね。おやすみ明久。」

「おやすみ、悠里。」 チュッ

そういつて明久は私のほっぺにキスしてきました。

自分の顔が真っ赤になるのがわかります。

明久にばれないよう、私は急いで自分の部屋に行きました。

〽朝〽

「おはよう、悠里。ゆっくり眠れた？」

いつもとは違う朝です。

なんだか気分がスッキリしています。

「おはよう、明久。よく眠れたよ。」

明久といつも一緒にいられる、それがすごく嬉しいです!!

明久side

ふう〜、僕も悠里も支度は終わったしそろそろ学校へ行こうかな。そうして僕らは学校に着いた。

校門には鉄人が立っている。

「おはようございます、鉄人先生。」

「????おはようございます。ええーと、鉄人先生?」

ああ、悠里は鉄人に会うのは初めてなんだっけ。

「悠里、この人は鉄人って言って、とっても怖い先「何をいつとるんだ吉井は

(ボコッ!!)」あはは・・・」

ヤバイ、何回倒れたら僕は気がすむの。これ以上は本当に悠里が泣いてしまう。

なんてことを考えながら結局僕は倒れてしまった・・・

その後

「明久!・・・先生、いくらなんでもやりすぎです。」

私の明久に手を出したこと後悔して下さいね」(ニコッ)

鉄人の悲鳴が鳴り響き。

悠里は『観察処分者』になっていた。

2人ではじめる（後書き）

一日が終わるのに何話けただろう・・・
今週はまた更新できそうです。

次は・・・また番外かな？

今のところ翔子・優子・秀吉の3人の中の1人を考えていますが、
この子の話がいろいろあったら教えてください。

困惑・・・（前書き）

明久、さいてー。

書いてる自分がそう思いました。

やっと、はーれむに？

困惑・・・

目が覚めたとき、僕の婚約者は観察処分者になっていた・・・僕が倒れたあと悠里は、なんとあの鉄人を一撃で倒してしまったらしい。

そんなこんなで、僕と同じ観察処分者になってしまった。

まあ本人は、なんとも思っでなく「明久とおんなじ、うれしいな♪」なんて言っでた。

そのあと、僕らは教室に行っでた。

今回も長い間眠っでしまっでいたらしく（過去最高記録）もうお昼の時間になっでて

いたため、お弁当を取りに行くからだっでた。

それに、心配してくれてる人が一応いるみたいだから、顔は見せておかなきゃと

思っでたからだ。

・・・そして今、僕の頭では理解できないことが起きている。

教室のドアを開けた瞬間、彼女が僕に抱きついてきたのだ。

「翔子ちゃん、どうしたの？」

そう尋ねてみたけれど彼女は抱きついてる手の力を強めるだけだ。

これはちょっとやばい・・・

「明久、どういことですか？O・H・A・N・A・S・H・Iしなきゃ
いけませんかね。」

ああ、怒っているのがよくわかる。どうすればいいだろう・・・
翔子ちゃんは抱きついたまんまだし、悠里は完全に怒っている。

僕はこのとき現れた人を本当に女神様だと思った。

「代表、何してんのよ。明久が困っているでしょ。悠里もそんな
いかにも

許しませんって顔してたら、話したくっても話せないでしょう
？」

「優子、助けに来てくれたの？」

僕を助けてくれたのは、優子だった。

「悠里に会いたかったのよ。久しぶりに会えるんだから。」

代表はお昼休みになったら、どっかいつちやうし・・・

それに私だって明久が倒れたって聞いて、心配してたのよ。」

翔子ちゃんが顔を上げて、僕をじーつと見てくる。

「明久、大丈夫だった・・・？」

「全然、大丈夫だよ。でも、ちょっと離れてくれると嬉しいな？」

抱きついてくるのは別にかまわないけど、時と場合を考えてほしいかな。

「・・・ごめん。最近会えないし寂しかったから・・・。」

翔子ちゃんがしょぼんとしてしまった。

「ごめんね？じゃあ今度、2人で出かけようか。」

「・・・うれしい／＼／」

翔子ちゃんが僕にもめつたに見せない照れた顔をして答えてくれた。

・・・一瞬、すべての人たちが息をするのをやめたみたいな空気になる。

「明久、何を言ってるんですか！この浮気者！！」

あつ！・・・みんながいるってこと忘れてた。

優子が動いた。また助けてくれるのかな？

僕の前に立って、一度悠里のほうに振り返る。

「ちなみに悠里に言ってなかったけど、私も明久のこと好きだから。」

そして、僕の頬にあたかいものが触れる・・・えっ？

「優子、なにしてるんですか！」

「優子・・・ずるい。・・・私も。」

悠里たちが僕に抱きついてくる。ぶっちゃけくるしい。

もう何がなんだかわからない。誰か、助けて・・・

ひでよし？

「わ、わしだって、ずっと明久が好きじゃっ！」

いま、なんて・・・

ただいまFクラス内混乱中により強制終了いたします

困惑・・・（後書き）

お久しぶりです。

更新するのに、だいぶ時間が経ってしまいました。
いつも、終わらせかたに悩みます。

もう冬休みということで、いくらなんでもそろそろ勉強を・・・と
思っています。

またまた、時間が空いてしまうかもしれません。
続けていく気があるので、今後もよろしくお願いします。

でわでわ、さらばっ！

番外その2 優子（前書き）

今回は短めです。

優子の独白？

でわでわ、どうぞ！

番外その2 優子

こんにちは、木下優子よ。

今回は、あたしと明久の出会い・・・ということだけど、私と明久の出会い

悠里を通してだったし、いわゆるフツの出会いだから、話さないことするわね。

代わりといっただけだけど、あたしがどうして明久を好きになったのか話そうと思うわ。

あたしが明久が好きだって自覚したのは、悠里が引越してからだった。

最初はある意味思ってたわよ。

悠里はあたしにとって親友といっていいくらいの存在だったし、明久を好きになることは

悠里に対しての裏切りだと思っていたから。

それに、秀吉が明久のことを好きになって、苦しんでいるのを知っていた。

あたしはあんなふうになんか人を好きになって、傷つきたくないと思っていたから、

明久だけは絶対に好きになつたりしないと強く思っていたの。

でも、悠里がいなくなつてから、ずっと明久といったら、なんだか自分が

おかしくなっていく気がした。だから、離れることにした。

そのときやっと、あたしが明久をどう思っているのか分かった。秀吉だって、傷つきたくなかったに決まってる。

本当は悠里じゃなくて、自分を見てほしいって思ってる。

もうやめたいって思ったこともあるかもしれない・・・でも、無理なんだ。

明久の甘い声、あったかい手、すべてを包み込むような腕、明久のすべてが、

好きになっていく。この気持ちは誰にもとめられない。

あたしは明久が好きだ。

明久に悠里がいようとこの気持ちを諦めたりしたくない。

いつか、言えるといいと思うの。

悠里に、明久に、あたしは明久が好きよ！って。

この恋はきつと叶わない。それでもいいじゃない。いつかこの恋を誇ることが出来るよう。

お互いに頑張りましょう、秀吉。

番外その2 優子（後書き）

どうだったでしょうか？

いつもコメントしてくださる方、ありがとうございます。

次はまた悠里たちにもどります。

長くかけるようにしたいと思います。

でわでわ、さらば！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1747y/>

私の明久に手を出すな～！！

2011年12月18日12時48分発行